

次号予告

特集 ICU

- ICU・CCU の機構と機能について.....東大第二内科 下村 克朗
 ICUにおける呼吸管理（術前・術後）.....国立療養所東京病院 芳賀 敏彦
 心筋梗塞の ICU における理学療法.....都立養育院 石橋 朝子
 呼吸器疾患（閉塞性）の ICU における理学療法.....横浜市大病院 藤谷 尚子
 脳外傷の ICU における理学療法.....東女医大病院 江原 定吉
 とびら 未定.....兵庫リハセンター 沢村 誠志
 講座 統計学（3）.....横浜国立大学 渡辺 健郎
 運動学シリーズⅢ：手の運動学
 （その3：手の動作と筋の働き）.....都立老人研 矢崎 潔
 チームの中の PT・OT
 座談会／養護学校教師と PT・OT.....中原養護学校 一柳勝治(司会)
 メディカルプロGRESS
 微細電極位置の同定法.....日大第一生理 石川 友衛
 自閉症（5）.....神奈川県・小児療育相談センター 佐々木 正美
 Q and A.....A：中司利一(横浜国大)・Q：鷺田孝保(神奈川リハ)

編集後記

精神薄弱の特集号を企画した。いろいろな障害者群中、精神薄弱児（者）は PT・OT から「難しいので」と敬遠されてきたように思う。理由として評価が正確にでない、接する時の要領が不明である、効果が表れる迄に時間がかかる、十分に教育学や心理学を学んでいないから、といった点があげられるであろう。

評価に関しては成因と診断で佐々木氏の「胎生期から.....」の時期のとらえ方、「チームワークによる.....」治療プランの立て方が参考になる。特徴のある接し方や治療方法については菊地氏、浅海氏の実例を基にした論文が身近に活用できる。最近重要視されている行動変容理論もこの道の専門

家の東氏に執筆して頂いた。聞きかじりで「行動療法は良い、悪い」と決めて通り過ぎてしまわないように、熟読されて特に時間のかかる精神薄弱や他の対象として器質障害（シンナー中毒、交通事故による後遺症、CVA によるなど）を伴った人にも応用することを奨めたい。

室橋正明氏の職業問題の論文は治療教育の目指す大きな目標として参考になる。

PT・OT のモットーとする「全人格へのアプローチ」は精神薄弱を対象とする時に、最も理念が発揮され、又逆には実力が試されることともなるであろう。幸い在校生の中にも精神薄弱の分野を志す人が現れてきている。先輩諸兄姉の業績をこの号を通して学び取ってくれるものと信じる。

（鈴木明子）

<編集顧問>

天児民和
 九州労災病院長
 五味重春
 府中リハビリ学院長
 砂原茂一
 国立療養所東京病院長
 津山直一
 東京大学教授・整形外科
 水野祥太郎
 川崎医科大学学長
 （五十音順、以下同じ）

<編集委員>

上田敏
 東大リハビリ部
 荻島秀男
 都立養育院リハビリ部
 佐藤馨
 神奈川リハセンター
 鈴木明子
 府中リハビリ学院
 谷岡淳
 自治医科大学
 田村美枝子
 清瀬リハビリ学院
 寺山久美子
 都心障センター
 松村秩
 都立養育院リハビリ部

<編集同人>

明石謙
 大井淑雄
 大川嗣雄
 大橋博
 鎌倉矩子
 紀伊克昌
 小林夏子
 駒沢治夫
 佐藤剛
 田原澄彦
 富岡詔子
 奈良勲
 藤沢しげ子
 藤本欽也
 前田守
 松本妙子
 矢谷令子
 山下隆昭
 横山巖
 和才嘉昭
 （担当 細田・松橋）